

水俣港を本格整備へ

五カ年で六億円投じ

貿易港として実績を上げている水俣港が、総事業費五億八千五百万円をかけてことしから五カ年計画で本格整備される。

万円に上り、従来の月平均額より三倍もふえて開港いらいの新記録をマークしている。

水俣市がこのほど作成した水俣港整備五カ年計画によると、まず

同港は十三年前、貿易港に指定されていらい岸壁増設や周辺の埋め立てなど着々と整備される一方、貿易もますます実績を上げ、三角税関支署がまとめたことし五月の貿易額だけでも六億二千二百

岸壁関係が工費九千三百三十万円で現在の第二岸壁をさらに五十・四倍延長して百十倍に、続いて長さ百三十倍の第三岸壁を二億二千百万円で新設する。これに

伴い港湾道路（七千六百六十三平方メートル）を二千二百七十万円で、また防波堤を六千万円で百五十倍、岸壁袖（そで）三十倍を三千三百万円でつくる。

拡張、新設岸壁は五千平方メートルで、これと並行して港湾のしゅんせつも行ない、面積十二万八千八百五十平方メートルにわたって海底土三十五万立方メートルをさらえる。工費は

一億九百万円。またしゅんせつした排土は第二、第三岸壁わき約四万三千平方メートルにわたって埋め立て、土地造成して将来の工場用地として活用することになっている。

また高潮対策として梅戸岸壁延長七百十メートルにわたり工費四千五百三十万円で護岸堤防工事を行なう。

工事は国、県、市の分担ですすでに一部着工した。四十三年度は第二岸壁五十四・八倍（工費八千六百万円）と高潮護岸堤防二百五十倍（工費一千九百二十万円の）、埋め立て予定地のせき止め基礎工事など行なう。